

救急処置演習 A-I		演習	准教授 古川 慎太郎 講師 清家 洋
科目カテゴリー	救急救命士コースの専門分野	科目ナンバリング	13391101

1. 授業のねらい・概要

本授業は、人の命の尊さや大切さを理解するとともに応急処置要領を修得し、災害現場や救護ボランティア現場において即戦力となる人材を養成することをねらいとする。

2. 授業の進め方

応急処置に関する知識と技術を確実に修得させるために、シミュレーション型実技訓練に重点を置いて演習を展開する。また、座学を並行して行い、演習に必要な知識の修得を図る。

3. 授業計画

1. オリエンテーション 教員紹介、授業進行、班編成、実習室の使い方、規律、団体行動の必要性 救急救命士の役割と将来像・応急手当の目的について 2. 環境観察 河川、運動場、道路など実際に赴き、環境観察の要点を理解する。 3. 環境観察～傷病者観察 環境観察・傷病者観察に必要な知識・技術を習得する。 4. 環境観察要領、傷病者観察要領 訓練人形を用いて心肺蘇生法(BLS・成人)質の評価をし、技術を習得する。 5. 感染対策、小児・乳児の蘇生について理解する。 6. 人工呼吸ポケットマスク・BVM の取り扱い 人工呼吸を含めた心肺蘇生法(BLS・小児・乳児)質の評価を行う。 7. AED の種類・除細動と蘇生について理解する。 8. 心肺蘇生法一連の活動のスキルチェックを行う。 9. 救急要請～口頭指導(心肺停止・急病人)について理解する。 10. 窒息を疑う場合の取りつき方法(成人・小児・乳児) 気道異物、手動的異物除去：腹部突き上げ法、背部叩打法、胸部突き上げ法を習得する。 11. 気道の解剖、接触～気道確保・初期評価について理解する。 12. 傷病者への取りつき・外見の評価と気道に関する観察について習得する。 13. 循環・意識について理解する。 14. 傷病者への取りつき・循環に関する観察と意識状態に関する観察 皮膚の状態と体温に関する観察を習得する。 15. 第1回～14回までの実技確認試験	16. 第1回～14回までの筆記試験 17. 現場活動者の情報共有について理解する。 18. 外傷傷病者への取りつき・状況評価と安全確保 軽症傷病者へのアプローチ：直接圧迫止血三角巾と間接止血ターニケットを習得する。 19. 外傷傷病者に対するアプローチと創傷処置について理解する。 20. 創部の観察と三角巾を用いた被服止血を習得する。 21. 骨折固定処置・災害時に活用できるものについて理解する。 22. 骨折の固定法・シーネを用いた上肢の固定、三角巾を用いた上肢の固定を習得する。 23. 救急要請と口頭指導(ケガの応急手当)について理解する。 24. 外傷傷病者への取りつき・受傷機転の把握 骨折の固定法、シーネを用いた下肢の固定について理解する。 25. スポーツ現場・日常生活で起こる外傷に対する初期評価と頸椎保護について理解する。 26. 外傷傷病者への取りつき・初期評価と頸椎保護、ネックカラーによる頸椎固定を習得する。 27. 全身固定について理解する。 28. 外傷傷病者への取りつき・バックボードの特性について、バックボードを利用した全身固定を習得する。 29. 第17回～28回までの実技確認試験 30. 第17回～28回までの筆記試験
--	--

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

カリキュラムに応じた予習・復習内容（課題レポート、小テストの見直し、ノート整理）を適宜提示する。これには週3時間以上を要する。実技については、次の授業までに訓練し修得する。これには相当数の時間を要する。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

1) 小テスト

誤った問題についてはレポートにまとめ、次の授業時に提出しフィードバックを行う。

2) 課題

- a) 教員は学生が提出した課題を評価し、フィードバックを行う。
- b) 課題で重要な部分は、次の授業始めにその内容を口頭で説明する。

6. 授業における学修の到達目標

- 1) 救急救命士資格を目指す学生として、倫理感・規律・礼儀を身につける。
- 2) 救急現場の「危険」と「安全」を理解し、危険時には正しい判断ができる。
- 3) 応急処置の実施方法を理解する。

7. 成績評価の方法・基準

成績評価の基準として、処置により病態の改善を予見するなど適切な思考判断を下し得る知力、技術の獲得ができたかを以下の方法で評価する。

1) 成績評価項目

- a) 事前の授業の準備と理解の評価
- b) 授業態度・主体的な授業への取り組みと講義の理解度の評価
- c) 授業後の内容の整理と課題の提出の評価
- d) 講義内容の理解度を試験で検討

2) 成績評価の方法

- a) 授業内容の整理・提出（20%）
 - イ 事前の授業の準備と理解
 - ロ 授業態度・主体的な授業への取り組み姿勢
- b) 実技試験
 - イ 受験資格として 80%以上の出席かつ、全ての課題が期限までに提出され合格している事が必要である。
 - ロ 合格を判定する。不合格のまま単位が出されることはない。
 - ハ 追試験の該当・手続きについては履修要項を参照し（但し追試験料は不要）、該当しない欠席については試験放棄とみなす。
 - ニ 再試験は必要に応じて1回のみ実施する（但し再試験料は不要）。
- c) 筆記試験（80%）
 - イ 受験資格として 80%以上の出席かつ、全ての課題が期限までに提出され合格している事が必要である。
 - ロ 中間試験は必要に応じて実施する。
 - ハ 中間試験・期末試験結果それぞれの点数の 60%以上を合格とする。
 - ニ 追試験の該当・手続きについては履修要項を参照し、該当しない欠席については試験放棄とみなす。
 - ホ 再試験は、中間試験・期末試験それぞれ必要に応じて1回のみ実施し、60%以上を合格とする。
 - ヘ 再試験の手続きについては履修要項を参照。

8. テキスト・参考文献

改訂第10版 救急救命士標準テキスト（へるす出版）

改訂6版 救急蘇生法の指針2020 市民用・解説編（へるす出版）

適宜指定するテキスト

9. 受講上の留意事項

- 1) 医学系授業の基礎となり、医療従事者であれば常に考え、身につけなければならない学習内容である。
- 2) 救急救命士としての資質を習得するために必要な団体行動、集団生活における時間管理・規律、礼儀、倫理感を養う。
- 3) 以下に該当する場合は、退出を命じ当日授業を欠席扱いとする。
 - a) 実習に相応しい身だしなみ（アイロンがけした制服、黒色または紺色の T シャツ、黒色または紺色の靴下、汚れていない内履、及び名札の着用）が履行できない場合。
 - b) 長い爪、髭、過度に明るく染色した頭髪、アクセサリーの着用等、社会通念上医療従事者として救急活動に従事する上で、相応しくないと認められる場合。
 - c) 使用するテキストや資料、個人資器材（腕時計、聴診器、ペンライト、ゴーグル）、その他授業に持参するよう指示した物品を忘れた場合。
 - d) スマートフォンなど音の出る電子機器については、電源を切ることを原則とし、これに従わない場合。
 - e) 居眠りや落ち着きのない言動等、授業の円滑な進行を妨げると教員が判断した場合。
 - f) 授業開始 10 分前までに事前連絡がない遅刻、及び 30 分以上の遅刻。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当有無

該当する。本授業は、公的機関等における実務経験を活かして指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。